

令和7年度 上宮学園中学校・上宮高等学校 学校計画と学校評価

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、中学生・高校生として生徒一人一人が、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。掃除とは文字通り身の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。勤行とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。学問は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探究心や自らの疑問を解決する能力としての智恵を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 「キャリア・パスポート」において日々の成長を可視化し、心の教育を実践すると同時に学校生活を見通したり、振り返ったりしながら、自らの成長を意識させる。
- ② 中学生には、基本的な生活習慣と学習習慣を定着させるとともに、生徒一人ひとりを大切に、日々の授業はもとより、様々な行事を通して個性・独自性を育て、「人間力」の礎を作る。
- ③ 高校生には、生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、大学進学等に必要な学力の養成と進路学習に重点を置くとともに、「探求的」な授業を活用し、主体性を養い、将来自分が進むべき道を創造させる。
- ④ 教員はモラルの向上に勤しみ、生徒に寄り添い、その能力、適性を伸ばして、進路の選択を支援しつつ、教師自身が日々研鑽し、指導力・専門的な知識の向上に努める。

3 中期的目標

- I 建学の精神に基づいた人材を育成する
- II 生徒の学力・進学実績の向上を目指す
- III 生徒の学校生活の充実と教育環境の発展を目指す
- IV 生徒募集事業と広報活動の戦略を立案し、志願者の質の向上と人数確保を図る
- V 健全かつ安定的な財務・経営を目指す

4 中期的目標に基づく、学校の本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

(A：目標が「達成できた」、 B：「7割以上が達成できた」、 C：「4割以上が達成できた」、 D：「ほぼ達成できなかった」)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
I	(1) 宗教情操教育による人間性の涵養	(1)①宗教科を中心に授業を通して宗教作法（合掌・黙想・焼香）を身につけさせる ②宗教行事（御忌式など）を通じて宗教情操教育を身につけさせる	(1)①授業担当者による点検 ②生徒への振り返りアンケートの実施	A 授業でも真剣に取り組む姿勢が見られた A 行事ごとで主体的に焼香する生徒が増えてきた
	(2) 「キャリア・パスポート」(冊子)の活用(中1・高1)	(2)①キャリア・パスポート実践の確認 ②キャリア・パスポートに「関する職員会の開催(教員理解・改良など) ③探求授業と融合させる	(2)①職員会での説明 ②担任への実施方法及び提出状況の確認 ③探求授業項目での冊子完成の確認	A (2)①学年別で説明会を開き、実施の徹底を促すことが出来た。 A ②学年主任より報告があった C ③改善する必要性を感じた。
	(3) スクール・ポリシーの運用	(3) HP等での告知	(3) 教職員及び保護者、生徒への発信	B (3) 一定の理解は得られたように思う。

<p>II</p>	<p>(1)教育システムの改良 (2)教育力の向上 (3)探求授業の充実に向けて研究を進め、校内の体制を整備 (4) 英語教育の充実 (5)中学生の学力向上への取り組み (6)放課後の学習活動の充実 (7)生徒の学習意欲の向上</p>	<p>(1)将来を見越してのコース再編の決定 (2)①シラバスの見直し ②模擬試験分析コンテンツの研修 ③定期的な教科会の実施 (3)①令和6年度に実施した内容を精査し主体的に取り組むための教材の選定 ②指導教員の研修 (4)①4技能養成の方向性を維持し、技能を伸ばすための工夫をする。 ②語学研修の計画 ③海外大学との連携 (5)①学力推移調査など各種検定試験の分析 ②早朝テスト実施 ③補習の実施 ④高校進学（内部進学）を見据えた目標設定 (6)①Uゼミの実施内及び実施時間帯の再考 ②デジタル教材のアナウンスと利用 ③自学自習体制の確立 (7)①各種テストの実施等学習イベントの見直し ②大学見学会の見直し及び実施 ③大学ガイダンスの実施</p>	<p>(1)1学期末まで (2)①1学期末まで ②実施回数 ③教科内の教員の研修 (3)①学校評価の指標を「3」以上を目標とする ②実施回数 (4)①英検での資格取得 ②オーストラリア・セブ島の以外の研修地の精査 ③テイラーズ大学との連携 (5)①会議等での報告 ②実施計画案の設定と提出 ③実施内容の報告と提出 ④入試実績により達成度を確認 (6)①1学期末まで ②利用率の数値 ③自習教室の運営 (7)①実施内容 ②実施内容 ③実施内容</p>	<p>C 抜本的な見直しの時に来ている。 D 進捗できなかった C 思うように実施できなかった A 効果的に行うことができた A 概ね達成できた B 目標回数は達成しているが、精査する必要がある B Uゼミ等との連携の強化 B 生徒の大半が満足している C 継続的な検討の必要性 B 概ね達成できた A 計画的にできた B 再考の余地の残した B 達成度の確認までは至らなかった B 19時までの実施で下校時における生徒の安全が確保できた C 達成できなかった A 先生方の協力の下達成できた B 効果的にできたように感じる B 継続的な審議が必要 B 概ね好評であったが、今後は大学への要望の明確化の必要性</p>
<p>III</p>	<p>(1)アフタースクール計画構想 (2)「ICT」環境の充実・活性 (3) 安心・安全な学校を目指す</p>	<p>(1)①状況調査を行う ②教員による補講習実施 (2)授業における ipad 利用の充実と BLEND 等を利用した発信 (3)①いじめ防止対策委員会の定期的な開催 ②各種ハラスメント等の職員研修の企画と実施 ③classi 等で学校の様子を保護者に発信する。 ④クレームに対応するための研修会の実施</p>	<p>(1)①計画表の作成 ②学年での調整 (2)ipad を利用した生徒の実感の把握 (3)①開催頻度 ②実施回数 ③ 発信回数 ④内容の検討</p>	<p>C 各学年の終礼時間が来年度より揃うのことになるので詳細については検討中である。 A (2)すべての学年でiPad使用可能となり、BLEND やロイロノート等日々の学習において活用されている。 A ①事象が発生後は必ず実施していた。 A ②実施回数は適当であった。(2回) C 実施ができなかった。 B 実施できたが、更なる検討が必要</p>
<p>IV</p>	<p>(1) 今までの広報のやり方を見直す (2) 効率のよい広告 (3) 中学生確保のための新しい企画を検討する。</p>	<p>(1)①入学者アンケートを4月当初に実施 ②受験者のニーズをする (2)新たなパンフレット（ダイジェスト版）の導入と既存のパンフレット等の刷新 (3)体験学習会の実施</p>	<p>(1)①1学期末に分析結果を出しその後の広報活動に活かす ②デジタルコンテンツによる後追い調査を参考にする (2)デジタルコンテンツの活用を併用 (3)一学期に実施する</p>	<p>C 分析までには至らなかった C 組織的に行うことができなかった C 有効的な活用が見いだせなかった。また、精査の必要性を感じた A 新たな行事を行い、その結果受験生が増加した</p>

V	(1)事業計画に基づく財政計画の策定	(1)教育環境の整備計画推進と見直し	(1) ICT 教育環境の整備と見直し	A	(1) 入試合否判定システム等の導入により業務の効率化が図れた
	(2)強固な財政基盤の確立	(2)①教育力向上のための給与体系の見直し ②諸規則改定による運営の見直し	(2)①成果主義賃金制度の検討 ②周知と研修	A	(2) ①契約の見直しによる経費の適正化 ②改定案届出
	(3)社会変化に対応できる組織力の確立	(3)①「働き方改革関連法」に則した勤務体制を整備する。 ②高年齢雇用安定法にも対応できる教職員人事制度改革の検討	(3)①変形労働カレンダーの作成 ②教員採用の充実	A	(3) ①繁忙期と閑散期のメリハリが付いていない ②改定案届出
	(4)学園ブランドの確立	(4)①同窓会・保護者会・産業界との連携強化 ②地元地域との交流 ③生徒募集に向けての発信力の強化	(4)①総会及び行事での交流 ②学園設備の貸出や行事での交流 ① 入試対策部・広報係との連携	A	(4) ①コロナ明けによる行事の復活で交流が深まった ②③地域集会参加と浄土宗開宗 850 年慶讃記念事業参加

5 学校評価アンケートの結果と分析

例年と同様に classi を利用したアンケート調査形式を採用した。回答率は、中学が66%（昨年度71%）、高校は52%（昨年度53%）となり、昨年よりも下回った。中学校では中学3年生、高校では高校3年生の低下が著しかった。毎年回答率が低下しているが、全体的に関心が低いというよりも、感心がある層とない層が二極化している可能性が高いと分析する。今回から「どちらとも言えない」を加えた5項目からの選択に変更した。また質問事項も「家庭での学習の様子」を新たに加え、24項目とした。各質問とも4段階評価とし、最高評価を-3点として平均値を算出した。基準としては「2.0以上…目指すレベルをクリアしている、1.0以上…最低限クリアしている、0.5以上…早急な対策を要する、0.5以下…即時の対策が必要」と認識している。

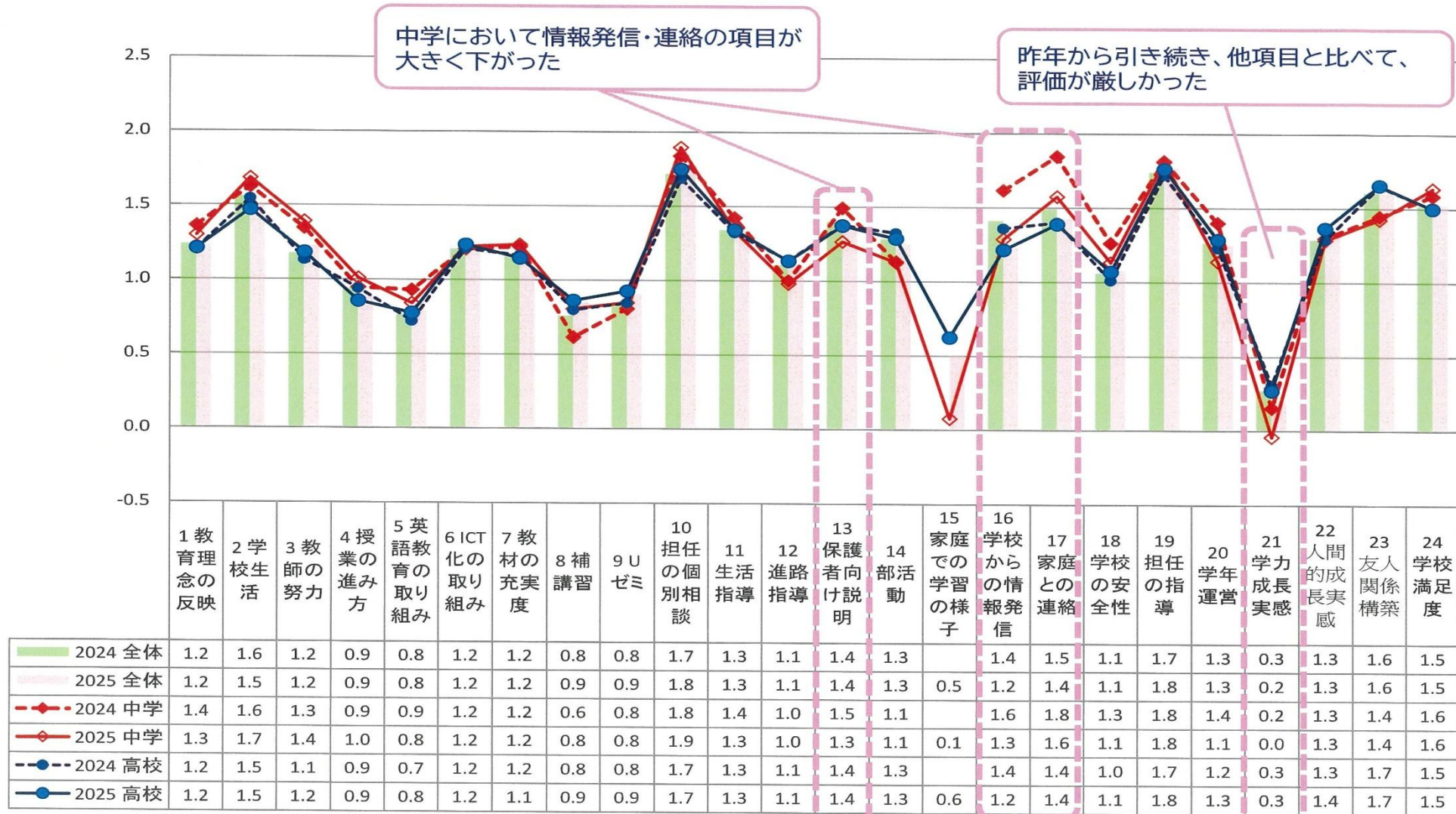
また、フリーアンサー（FA）については、毎年厳しいご意見を頂戴することが多かった。特にセキュリティの対策については辛辣な意見を頂戴した。しかし、例年と同様、担任の先生の努力や、対応のきめ細かさに感謝の声が多かったことも加筆しておく。

No	2025年 学校評価質問文	短縮表記
1	教育理念が教育活動全般に反映されていると感じますか？	Q 1 教育理念の反映
2	お子様の学校生活は楽しく充実していると思いますか？	Q 2 学校生活
3	教師は生徒の学習意欲を高める努力をしていると思いますか？	Q 3 教師の努力
4	お子様から聞かれて、授業の進み方には満足していますか？	Q 4 授業の進み方
5	英語教育に関する取り組みは充実していると思いますか？	Q 5 英語教育の取り組み
6	本校のICT化への取り組みは充実していると思いますか？	Q 6 ICT化の取り組み
7	教材やテキストは充実していると思いますか？	Q 7 教材の充実度
8	平常の補講習は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q 8 補講習
9	Uゼミ（英検対策、オンライン英会話を含む）は、進路実現に向け充実していると思いますか？	Q 9 Uゼミ
10	担任は親身になって個別的な相談に応じてくれますか？	Q10 担任の個別相談
11	基本的な生活習慣が身につく生活指導が行われていますか？	Q11 生活指導
12	将来の進路や生き方についての指導が十分なされていると思いますか？	Q12 進路指導
13	進路及び教育活動に関する保護者説明会や懇談会は充実していると思いますか？	Q13 保護者向け説明
14	部活動は活発で内容が充実していると思いますか？	Q14 部活動
15	お子様はご家庭でも主体的に学習に取り組んでおられますか？	Q15 家庭での学習の様子
16	学校からの通信や文書は、学校の様子が家庭に良く伝わる内容になっていますか？	Q16 学校からの情報発信
17	学校や教師は家庭との連絡を大切にしていると思いますか？	Q17 家庭との連絡
18	本校の防犯、安全管理への対策は十分だと思えますか？	Q18 学校の安全性
19	現在のお子様の担任の指導には満足されていますか？	Q19 担任の指導
20	現在のお子様の学年の運営には満足されていますか？	Q20 学年運営
21	我が子は期待している通りの学力的成長をしていると思いますか？	Q21 学力成長実感
22	我が子は学校生活を通して人間的に成長をしていると思いますか？	Q22 人間的成長実感
23	学校はよい友だち関係を築く場になっていると思いますか？	Q23 友人関係構築
24	本校を選ばれたことに満足されていますか？	Q24 学校満足度

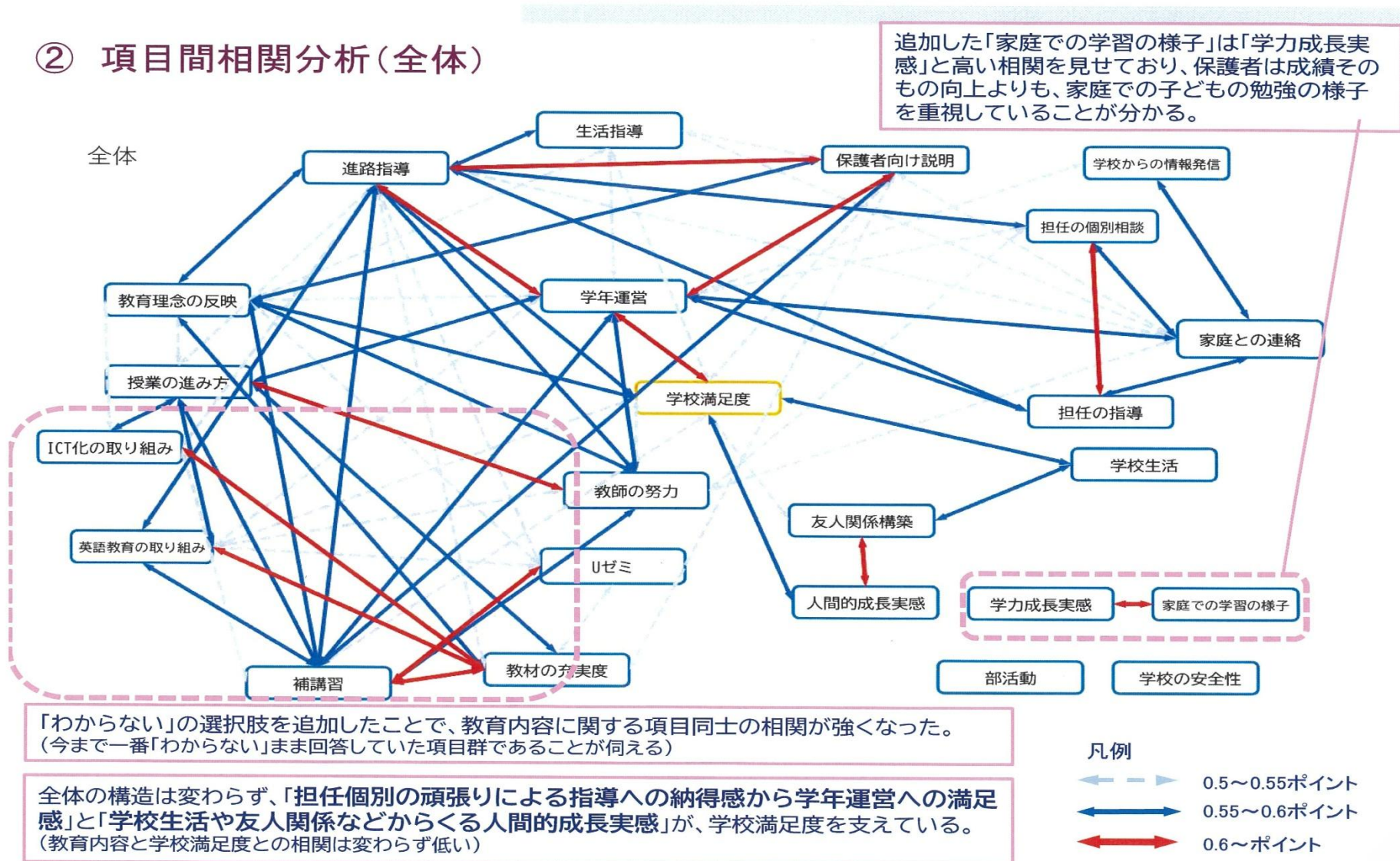
【学校評価アンケートのまとめ】

- ◆ 新たに選択肢を追加したが、全体的な傾向に変化は見られなかった。一方、「わからない」と回答している保護者が5人に一人になる項目もあり、学習のサポート面などを中心に学校側の情報発信が伝わっていない様子が見受けられた。
- ◆ 「学力成長実感」に関しては、保護者は「家庭での学習の様子」をみて実感していることが分かった。現時点でも、「家庭での学習の様子」は概ね学年進行では改善しているが、満足度は他の項目に比べて低い。特に、中学では「学習習慣の定着」を求められていることが伺える。

① 単純集計結果(全体・中学・高校)



② 項目間相関分析(全体)



本年度のトピックス

① 成長実感タイプ別分析

昨年と比べて、**グループB**の割合が少なくなった。

グループA
両質問高評価群 **617名**
(58.2%)

Q20 学力成長実感 **プラス評価**
Q21 人間的成長実感 **プラス評価**

グループC
人間的成長高評価群 **375名**
(35.3%)

Q20 学力成長実感 **マイナス評価**
Q21 人間的成長実感 **プラス評価**

グループB
学力成長高評価群 **4名**
(0.4%)

Q20 学力成長実感 **プラス評価**
Q21 人間的成長実感 **マイナス評価**

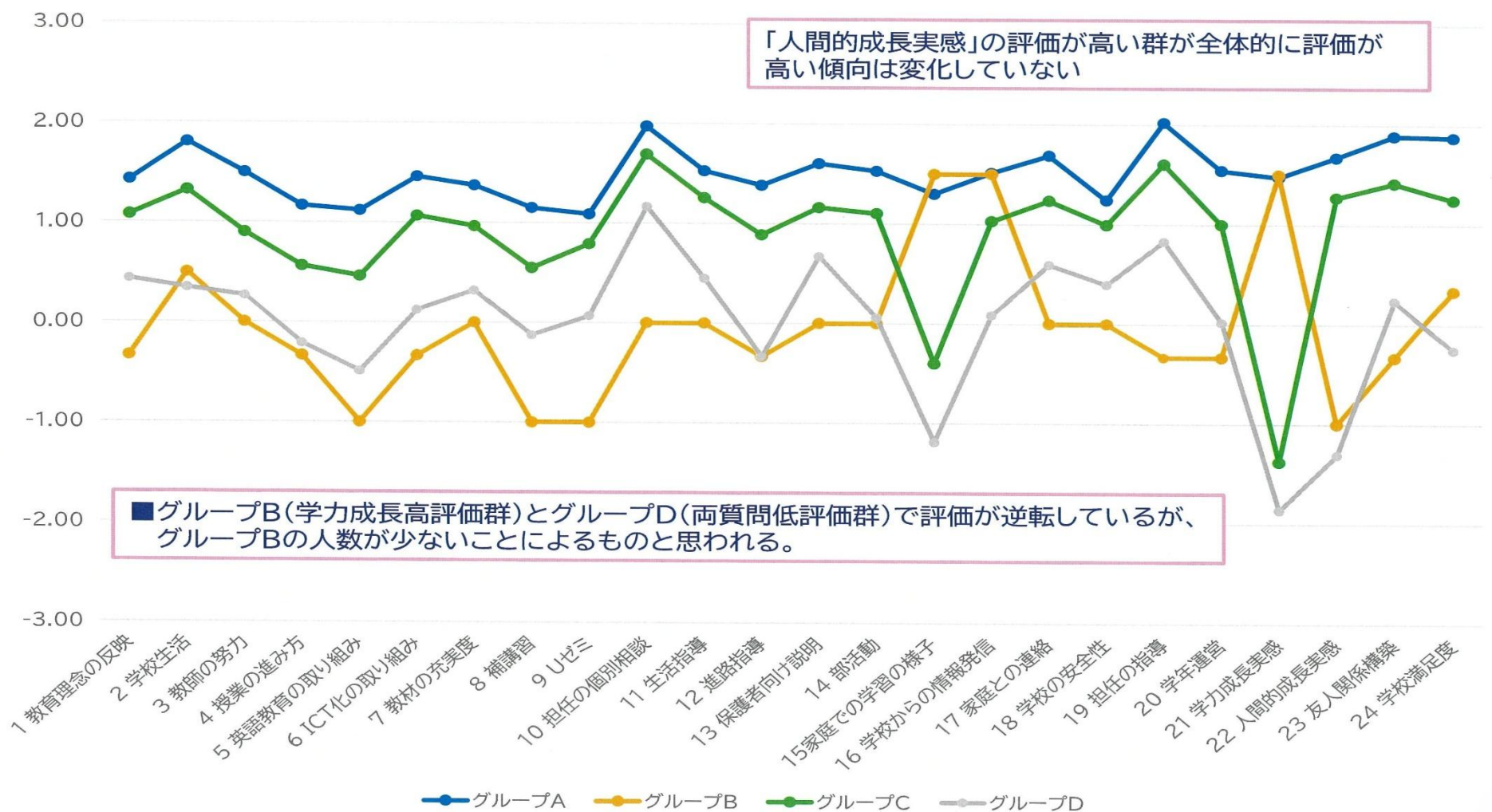
グループD
両質問低評価群 **65名**
(6.1%)

Q20 学力成長実感 **マイナス評価**
Q21 人間的成長実感 **マイナス評価**

※Q20、Q21のどちらかに「わからない」と回答している人は集計から除いています

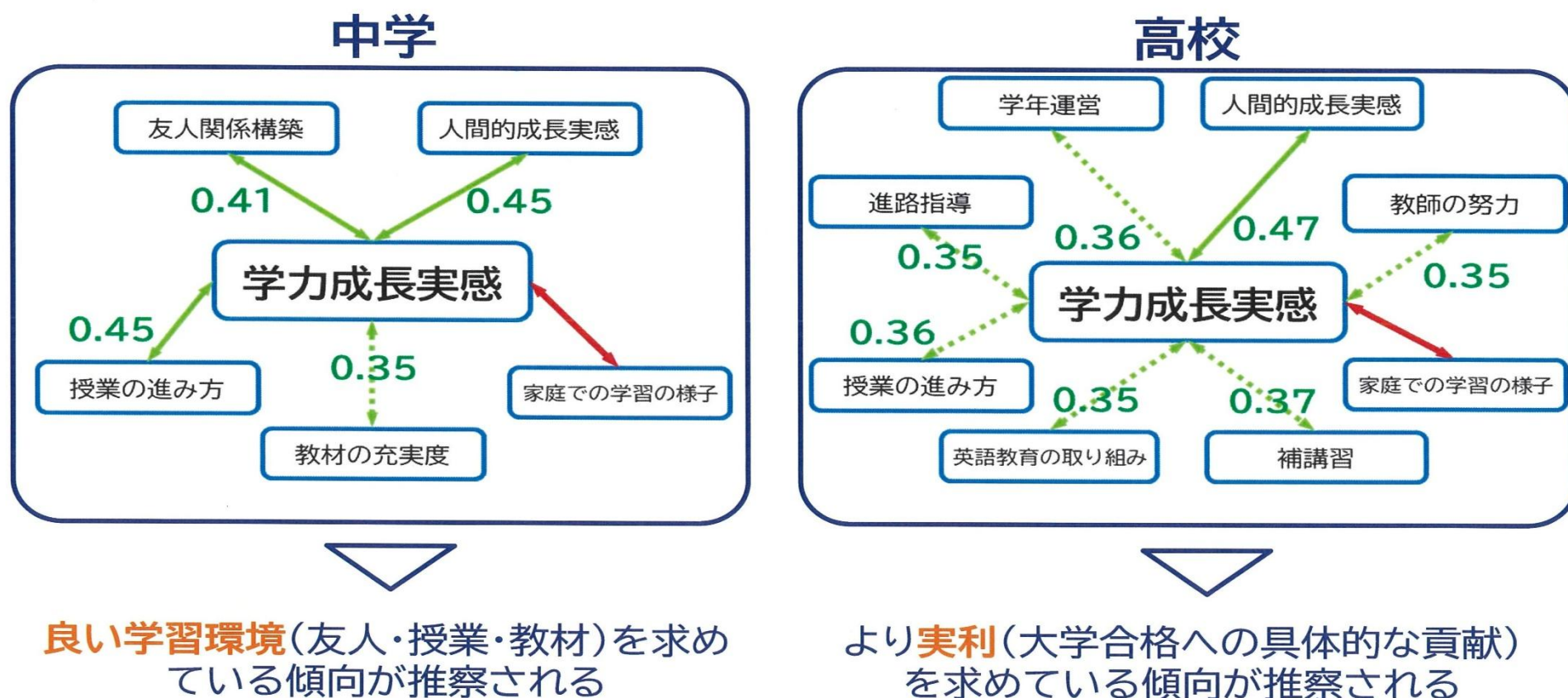
本年度のトピックス

成長実感タイプ別のその他項目のスコア



学習に対して中・高の保護者が求めているであろう支援

※相関係数は0.5未満だが、他の項目と比べて相対的に相関高い項目を抽出(0.35以上)



【フリーアンサーについて】

今回のフリーアンサーにも様々なご意見を頂きました。全てのご意見に返答は難しいですが、一部の疑問について返答させていただきます。

① 生活指導部の指導方法について

頭髪について、または制服の規定、主にスカート丈の長さについて厳しいという声が多く聞かれました。「上宮」というブランドの品格を保つために必要なものと考えております。ソックスについては従来の制定品に加え、無地の黒色ソックスも許可することに変更しております。また、防寒具等については現在検討中のものもございます。時代の流れに合った指導方法を考える必要はありと存じますが、ご理解下さい。

② 英検講習などの日程について

クラブ等で土曜日にある英検講習に参加できないという声を多数頂き、26年度よりもう一日増やし、月曜日と土曜日行うことに改訂します。また、授業の復習をして欲しいという要望が多く、「苦手克服講座」を充実させることにしました。

③ 防犯について

昨年度は、保護者の皆様には大変ご心配をお掛けする事象が多発致しました。再発防止のため、昨年7月下旬より警備ボックスの設置、今年度は北キャンパスにも設置致します。また、教員への研修、警察との連携も密にとっております。情報の全てを開示するのは難しい面もありますが、開示できる情報は保護者の皆様とも共有させていただきます。不審者と区別する方法としまして、来校の際にはネームタグをつけて頂いておりますが、今後も引き続きご協力よろしくお願い致します。

6 学校評価の総括

令和7年度は、学校行事などの見直しが図られ、文化祭は在校生の保護者のみの入場実施となったが、久しぶりに外部の方を入れての文化祭となった。高校生の修学旅行の行き先も海外（オーストラリア）へとなり3年を迎えた。昨年からはじめた「キャリア・パスポート」も2年目を迎え、概ね順調に行っている。2025年度学校評価・学校教育の項目については、概ね達成できたようであるが、セキュリティー対策の編み目を潜るような事項が相次いで発生し、甘さが露呈した年でもあり、保護者並びに関係者に迷惑を掛けた年でもあった。改めて、セキュリティー強化の大切さが身にしみた年でもあった。

学校評価アンケートでは、昨年度の内容に加え、Q15「家庭での学習の様子」の項目を追加した。Q5では中学校と高校とで差がついた結果となった。中学校では一学年のクラス数が少ないことを活かし、ネイティブでの授業、少人数制による授業の展開そして暗唱大会など、英語に親しみかつ実践的な授業を行うことができたが、一方高校では大学受験を見据えた授業を展開しており、学ぶ方向性の違いが数値の差に表れたと思われる。Q6の「ICT化の取り組み」では、成績確認など昨年より「BLEND」上で行うことになっているが、徐々に生徒、教員に浸透しつつあるように感じる。昨年度同様、Q21「学力成長実感」の数値が気になる場所である。大学進学実績（主に国公立大への進学率）にも反映しつつあるので、学園として真摯に受け止め、問題解決に取り組んでいきたい。ただし、Q8、Q9の項目とは無関係ではないと思われるので、具体的な方策は総合的に考える必要があると思われる。一方で、担任に関わる項目は全てにわたって高評価であった。担任の関わり方の重要性が保護者にとっていかに安心感を与えられるかが明白になり、今後も大切にしていきたい。

最後に、今回の保護者アンケートからは、学校運営に保護者の皆様のご理解・ご協力が必須であることが再認識できた。今年度、保護者会活動が再開され、従来の形に戻ってきた。以前のように保護者の方々とのコミュニケーションを通じて、生徒・保護者・学校がともに力を併せ、ともに成長発展していくことを切に望んでいる。

7 学校関係者評価

【建学の精神について】

一枚起請文・御忌会など、校祖法然上人の精神を学ぶ機会があるのは素晴らしいと思います。ただ、行事としての側面が強く、上人のお考えを生徒自身の生き方の指針とできるような内容の充実を望みます。

【家庭学習と学力成長実感】

学力成長実感については、新しく家庭学習の質問項目が増えましたが、低いように思われます。

学校の教科をいかに家庭での自主的な課題への取り組みにつなげるか指導をお願いしたい。また、やはりスマホやタブレットなどの家庭での使用時間が家庭学習に大きく影響する現状はあると思われます。入学時にそれらの質問をされた事は承知しておりますが、継続した質問項目として入れては如何かと思えます。

【防犯について】

昨年学校の安全面で非常に懸念される事態が起きましたが、警備ボックスの新設、保護者来校時のネームタグ確認など、評価できる取り組みが進んでいると思います。ただ、個人情報等で難しいところとは思いますが、事件の詳細や警察情報など、開示できる情報は共有いただきたい部分もあります。

【検定・コースについて】

中学で英語検定があるのは承知しているが、以前ありました日本語検定など、他の学内実施検定の種類を増やして頂きたいと思えます。また、クラブや英数など、コースごとの魅力をもう少しアピールして頂ければと思えます。

令和7年度 各部署における、本年度の重点目標・具体的な取組計画・評価指標・自己評価

【学年】 どの部署も、游明朝 10 ポイントでご記入ください。 5 項目とは限りません。

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
中学1年	(1) 生徒の自立を促す (2) 教員間のチームワーク育成 (3) 基礎学力の確立 (4) 生徒とのコミュニケーション (5) 「思いやり」の心を育む	(1) 全生徒がクラス内で何等かの仕事を受け持ち、責任をもって行わせる。 (2) 学年会や空き時間・放課後等での情報交換を通じて生徒への対応を円滑に行う (3) 授業の充実と、小テスト・補講習の実施、早朝テストや期末考査後の習熟度別の講習を実施する。 (4) 学年団による生徒への声かけ (5) マナー指導や、友達との接し方の助言	(1) 生徒によるクラス運営が円滑におこなわれている (2) 教科担当から担任への生徒情報の報告、提出物等の確認・報告。 (3) 小テストの頻度、講習の形態や実施頻度、内容の充実。 (4) 学年団の先生が、生徒全員の名前を覚え、各生徒と1度は会話をする。 (5) 生徒間トラブルの削減	(1)C (2)B (3)A (4)A (5)B (1) 係等で消化不良なものが見られた。 (2) 提出物の確認等は積極的に行えた。情報の共有も円滑に行えた。 (3) 期末後の習熟度別の授業も加配などを行い、満足のいくものとなった。小テストもおおむね充実できた。 (4) 生徒全員とはどの教員もコミュニケーションをとれている。 (5) できるだけ生徒間のトラブルは早く対処しているつもりである。ただ、中1なのでトラブルは多い。
中学2年	(1) 生徒の自立を促す (2) 教員間のチームワーク育成 (3) 基礎学力の確立 (4) 生徒とのコミュニケーション (5) 「思いやり」の心を育む	(1) 全生徒がクラス内で何等かの仕事を受け持ち、責任をもって行わせる。 (2) 学年会や情報交換を通じて生徒への対応を円滑に行う (3) 授業の充実と、小テスト・補講習の実施 (4) 学年団による生徒への声かけ (5) マナー指導や、友達との接し方の助言	(1) 生徒が主体的にクラス運営を行っている (2) 教科担当から担任への生徒情報の報告 (3) 小テストの頻度 (4) 学年団の先生が、各生徒と1度は会話をする。 (5) 生徒間トラブルの削減	(1)B (2)A (3)B (4)A (5)B (1) 行事等で生徒が主体的に行動するようになった。日常生活においても主体性を育みたい。 (2) 教員間の風通しがよく、情報交換は頻繁に行われたため、先手の対応が可能であった。 (3) 小テストの効果が薄いように思われる。生徒の小テストへの意識が低い。学期末における補講習は効果があったように思う。 (4) 教員と生徒との会話は多い学年だと思う。生徒から教員に話かけてくる機会も多い。教員・生徒との良好な関係が築けている。 (5) 学年団からの啓発で、生徒間でのトラブルは激減した。生徒間でのマナー指導を継続したい。
中学3年	(1) 安心できる学校生活の実践に向けた生徒指導の確立。 (2) 学年の教員間による情報の共有、学年会の活性化。 (3) 基礎学力の定着に向けた、宿題・早朝テスト・補講習等の企画と運営 (4) 人間教育の充実化 (5) 学年関連行事の調整・行事予定の作成、および企画と実施	(1) 教員間の情報共有を密にし、学年全体で生徒指導にあたる。学校生活の送り方などを指導していく。 (2) 学年会の開催を定期的に行う。意見を集約し共有する。 (3) 生徒に一方的にやらずだけではなく、放課後学習などのフォローも重点に行う。 (4) 人権教育などを使い、グループワークで生徒に考えさせ意見を交換させる。 (5) 学年の会議や、職員室にての議論の充実。	(1) 生徒指導頻度での評価。 (2) 学年の会議の回数 (3) 実施回数や課題提出の回数や有無により評価する。 (4) 振り返りシートを実施 (5) 行事の回数やブラッシュアップされた行事の実施。	(1)A (2)B (3)A (4)A (5)A (1) 学年団で情報の共有を密にできていたおかげで、問題行動もいち早く確認でき対応できた。 (2) 学年会の機会を多く設けられ、行事や取組みへいろいろなアイデアを共有でき実施できた。 (3) 英語、数学、国語で早朝テストを実施できた。居残り補習や講習なども取組み充実できた (4) 各担任の先生より、ホームルームで伝達がスムーズにできた。 (5) 行事に関して生徒に考えさせ取組むことができた。
高校1年	(1) 基本的な生活習慣を確立させる (2) 学年運営及び学年会の活性化 (3) 将来につながる進路指導 (4) 学力向上につながる学習指導 (5) 補講習の充実	(1) 二者面談等を活用する (2) 担任・分掌・コースは当然として教科担当の先生の見解も吸収する (3) 進路指導部との連携し、ミスマッチの無い文理選択につなげる (4) 日々の学習習慣の確立 目標を2時間/日とし継続して行う (5) 放課後及び学期末の補講習実施	(1) 面談時に確認する (2) 生徒や保護者のアンケート結果を指標とする。 (3) 生徒の進路に対する意識で評価 (4) 定期考査での成績不振を減らし、模試の成績を向上 (5) アンケートや成績の変化で評価	(1)a (2)b (3)b (4)c (5)b 定期的に面談を行い、生活習慣についても指導を行った。 各教員からの意見が出やすい学年会の実施ができた。 意識付けの時期を早めに行い目的意識を持って進路選択した。 デジタルによる学習アプリの配信など意識付けを重視した。 放課後、期末考査後に講習を実施した。継続して続けていく。

高校2年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣を身につけさせる (2) 将来につながる進路指導 (3) 学校行事への積極的な参加 (4) 学年の連携と情報共有 (5) 補講習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 二者面談を活用する (2) 生徒個々に応じた進路指導の実施 (3) 体育大会・文化祭・修学旅行などクラスで取り組み計画 (4) 学年会の実施と classi の利用 (5) 放課後及び学期末の補講習実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校生活・生活習慣において評価 (2) 生徒の進路に対する意識で評価 (3) 行事に対する満足度で評価 (4) 学年会と classi の頻度で評価 (5) アンケートや模試成績の変化で評価 	<ul style="list-style-type: none"> (1)A (2)B (3)B (4)B (5)B 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任を中心にした取り組みで、基本的な生活習慣が身につけている生徒がほとんどである。 (2) 進路指導部からの資料を来年に向けて活かせるように生徒の意識改革を継続してやっていく。 (3) 体育大会・文化祭ならびにオーストラリア修学旅行が実施でき生徒の満足度は比較的高かったと思われる。 (4) 学年間の連絡は Classi を通じて概ねできたが、周知徹底できていないところも少なからずあった。 (5) 期末・学年末考査後に講習はできたが、その内容についてははまだ改善の余地がある。
高校3年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高いコミュニケーション能力を持つ生徒の育成。 (2) 将来に対する明確なビジョンを持つ生徒の育成 (3) 目標・夢の実現に向けて最後までやり抜く力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 普段の学級活動において自分の意志を伝え、また他人の意見を聞き入れる場を多く持つ。 (2) 希望する進路に対する志望動機を明確に述べられるように指導する。 (2) ホームルームや面談などを活用し、実践例を提示して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自分や他人を思いやる言動について評価する。 (2) 志望理由書を作成させ、評価する (3) 生徒の進路に対するこだわりを、面談を通じて評価する 	<ul style="list-style-type: none"> (1) B (2) A (3) A 	<ul style="list-style-type: none"> (1) まだ消極的な所が見受けられ、さらに成長させることができた (2) 面談を重ねることにより明確な進路希望を持たせ、志望理由書などの作成も前向きに取り組ませることができた (3) 3月入試まで諦めず取り組み合格することができた

【コース】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析	
6 か 年	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自律的学習者の実現 (2) 各学年の学力向上策の促進 (3) 将来の自己像の明確化 (4) 体験的なキャリア教育の実現 (5) 6か年コースとしての独自性の促進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各教科での学習方法の指導 (2) 各担任の進路指導の共有化 (3) LHR・探究の有効利用 (4) 自分の進路を自分で決めるという主体性の育成 (5) 六か年会議等で協議を行う 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 考査・模試等の設定目標の達成度合いによる確認 (2) 六か年会議の中で学年の取り組みにより確認 (3) 懇談・生徒へのアンケート等で確認 (4) 卒業生・上級生からのアドバイスにより確認 (5) 特進・一貫プレップの独自性の実現 	<ul style="list-style-type: none"> (1) B (2) B (3) C (4) A (5) B 	<ul style="list-style-type: none"> (1) コースの区別がなくなってきて今後どうしていくかが課題となってきている (2) 個々に確認 (3) 今後も検討が必要 (4) しっかりと実施できた (5) コースの区別がなくなってきているので今後検討が必要
I ・ II 型	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の学力が向上する指導 (2) 生徒自身による将来の進路の決定 (3) 生徒が希望する進路実現 (4) 担当教員間の情報共有の円滑化 (5) コース残留、移動の基準等についての吟味・変更・実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 模擬試験の結果の分析と指導 (2) 担当者による情報の提供をもとに進路を考えさせる。 (3) 進路指導内容の共有化 (4) 受験校の指導を複数の教員で行う (5) 残留基準・移動基準を担当者で話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒による模試の数値目標の達成度で確認 (2) 懇談等で担任が確認 (3) 各学年で共有できている全学年で共有できている (4) 各学年で共有できている全学年で共有できている (5) 国公立会議で1学期中に吟味し今年度から実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) A (2) A (3) B (4) B (5) A 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各担任で二者面談、三者懇談を効果的に運用できた (2) 各担任で二者面談、三者懇談を効果的に運用できた (3) 担任による指導に終始した (4) 担任による指導に終始した (5) コース会議で検討できた
プレ ッ プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) プレップコースの活性化 (2) 連携・指定校制推薦入試に対する意識の変革 (3) 連携・指定校制推薦に依存しない学力の向上 (4) 生徒の実情に合わせた「パスポート項目」の改定 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 行事の見直し（廃止や新規導入）で、生徒の進学意識を高める (2) 説明会等で連携・指定校制推薦がメインの入試でないことを意識づける (3) 模擬試験の復習の徹底などを通して、学力の底上げを図る (4) 年度ごとにプレップ会議で改定について協議する 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 業者の教材使用も視野に入れる (2) プレップコース独自の説明会を設ける (3) 「Highschool-online」「キャリアナビ」等を利用し取組状況を把握して指導する (4) 各項目の比重を、あるべき生徒像と照らし合わせて決める 	<ul style="list-style-type: none"> (1) B (2) B (3) B (4) B 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 少しずつ変化を期待 (2) 一般受験の意識を持った生徒も見受けられる。明らかな減少傾向にはない (3) 自習の効果的な利用を検討すべきか (4) 学力（実力）をより重視するように運用したい

【教科】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）	自己評価と分析
国語	(1) 基本的国語力の充実 (2) 学力推移調査・模擬試験の全体把握 (3) 補講習の充実 (4) ICT教育の研究と活用 (5) 新課程の評価基準	(1) 各コースの教育プランに基づいた補講習の立案。 (2) 小テスト・課題・補講習の実践。 (3) 学力推移調査、模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討。 (4) 1.みらいスクールの活用やオンライン授業への対応の研究。 2.デジタル便覧の活用 (5) 1.新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会を活用し、観点別評価基準の明確化する。	(1) 各コースの数値目標の達成度を確認 (2) 授業アンケートによる数値化 (3) 1学期中間考査までを期日とする (4) 1.1 学期末を期日とする 2.2 学期末を期日とする (5) 1 学期末を期日とする	(1)B (1)各担当者、目標達成に目指し、努力をし続けている。 (2)B (2)まだ評価をあげられるように思われる。 (3)B (3)コース・学年により立案及び実施に差がある。 (4)B (4) コース・学年により立案及び実施に差がある。 (5)B (5)主体的評価については、改善の余地があるように思われる。
社会	(1) 聞かず授業内容・方法の工夫 (2) 各コース別授業の確立 (3) アクティブラーニング、ICT教育の研究と活用 (4) 新課程への更なる対応 (5) 新課程の評価基準の確立	(1) 授業の工夫、生徒対応の工夫 (2) 授業の適正化、課題、補講習の充実 (3) 科目による PC,iPad,みらいスクールの活用と研究 (4) 新課程内容の情報の共有と対策研究 (5) 観点別評価基準について理解を深めるため各科目及び教科会で検討	(1) 授業アンケートの数値の向上 (2) 各コースの模試数値目標の達成 (3) 授業アンケートによる数値化で確認 (4) 2 学期末を期日とする (5) 1 学期中を期日とする	(1)B (1)教科平均 3.34 (2)B (2)特に国公立コースにおいては少ない授業時間の中でも共通テスト対策を行っているが更に取り組みたい。 (3)B (3) 教科平均 AL3.00, ICT3.27,科目により取り入れやすい,取り入れにくいはあるが,工夫し取り入れていきたい。 (4)B (4)3 年目となるため対応できつつあるも,更に対応していきたい。 (5)B (5)主体的評価については,もう少し改善等が必要である。
数学	(1) 基礎学力の定着 (2) 授業の質の向上 (3) 変わりゆく大学入試への適切な対応 (4) ICT教育の充実 (5) 新課程の評価基準	(1) 小テストのこまめな実施や問題集をこまめに組みこませよう指導 (2) 考えさせる授業や、ICTの活用などで生徒たちが積極的に学習に取り組める授業を実践する (3) 大学の入試問題を解き、教科内で研究し情報共有し、生徒へ情報還元する (4) デジタル教材やグラフソフトの相互活用 (5) 新課程の観点別評価基準について理解を深めるため教科会で検討	(1) 模試の数値目標の達成度合いを確認 (2) 授業アンケートによる数値化で確認 (3) 2 学期初頭を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化で確認 (5) 1 学期末を期日とする	(1)B (1) 概ね達成できていると思われる (2)B (2) 向上できていると思われる (3)B (3) 皆で入試問題の模範解答を作成し、対応できた (4)B (4) 研修会を1度開催できたが、年に複数回研修会ができなかったことが反省点 (5)B (5) 教科会で先生方からの情報を共有できていた部分と伝わってなかった部分とがあった
理科	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の学力、進学実績の向上を目指す (3) ICT教育の充実 (4) 新課程への対応	(1) 小テストの実施、実験や授業の活性化 (2) 模擬試験の成績データの結果の分析と対応策の検討 (3) ipad を使用しての、デジタル教科書の有効な活用 (4) 観点別評価の内容検討	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 各コースの数値目標の達成度を確認 (3) 活用方法の共有化 (4) 観点別評価の内容検討	(1) B (1) 各科目で取り組んだが、まだまだ組み入れる余地もある。 (2) B (2) 各科目積極的に取り組んだ。 (3) B (3) ipad 等デジタル機器を利用した授業を積極的に取り組んだ。 (4) B (4) 観点別評価を中心に実践を進めた。
英語	(1) 英語学力の向上 (2) 資格試験の情報提供 (3) 大学入試への適切な対応 (4) アクティブラーニング・ICTの活用 (5) 新課程への対応	(1) 小テスト・課題・補講習の充実 (2) 英検等の情報収集と実施 (3) 大学入試の情報収集と共有 (4) 情報収集と実践の共有化 (5) 観点別評価の内容検討	(1) 授業アンケートによる数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2 学期末を期日とする (4) 授業アンケートによる数値化 (5) 2 学期中を期日とする	(1)B (1) 教科平均 3.33 (2)A (2) 英検中学年 3 回校内実施 (3)B (3) 共有できた (4)B (4) 教科平均 AL3.04, ICT3.16 (5)A (5) 教科会で情報共有
保健体育	(1) 基礎体力の向上 (2) 安全教育の推進 (3) 規律ある態度の育成 (4) 新課程への対応 (5) ICTの活用	(1) 生涯にわたりスポーツを楽しむ態度の育成 (2) 事故の無い授業の推進 (3) 自主的に授業に参加する態度を育てる (4) 観点別評価基準の明確化 (5) ICT教育の研修、研究、活用	(1) 学年末を期日とする (2) 学年末を期日とする (3) 授業アンケートによる数値化 (4) 学年末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1)B (1)各種目別に取り組んでいる (2)A (2)大きな事故なく達成 (3)C (3)各種目において取りくめた (4)B (4)評価をより明確に取り組むことが必要 (5)C (5)さらに研究が必要
芸術	(1) 芸術を親しみ愛好する心情を伸ばす授業の展開 (2) 芸術への関心を高めるような内容を構築 (3) 表現及び鑑賞の能力を高める指導の充実を図る (4) 授業の実施方法について教科内の連携	(1) 作品は肯定的に評価し、表現の多様性を理解させる (2) 制作意欲を高める課題の設定 (3) 様々な作品を鑑賞させる (4) 教科会の活性化	(1) 学年末に感想の提出を求める (2) 学期ごとに感想の提出を求める (3) 鑑賞会の実施により意見交換する (4) 中高担当者同士の情報交換を活発化	(1)B (1)毎学期ごとにしたい (2)B (2)iPad を利用したい (3)A (3)鑑賞の素材をしっかり精査できた (4)B (4)活発にしていきたい
家庭	(1) 家庭科への興味の向上 (2) 授業理解度の向上 (3) 授業の質の向上 (4) 新課程の評価基準	(1) 生活の基礎知識である家庭科に興味を持ってもらえる工夫 (2) 生徒が理解しやすいよう教材等の工夫 (3) ICT を活用し、思考力、判断力、表現力の向上を図る (4) 教科会の活性化を図るとともに観点別評価の内容検討	(1) 学年末を期日とする (2) 授業アンケートにより数値化 (3) 授業アンケートにより数値化 (4) 2 学期末を期日とする	(1)B (1)映像利用や実習実施等で工夫した (2)B (2)クイズ形式で復習するなど理解を深める工夫をしたが、努力が必要 (3)A (3)教科平均 3.38 (4)B (4)今後も出来るだけ活発に教科会を実施していきたい

情報	(1) 生徒の ICT スキル向上の指導 (2) 情報モラルの育成 (3) プログラミング能力及び、アルゴリズムの理解の向上 (4) 共通テスト対策における指導力の向上 (5) 効果的な教材開発および情報収集	(1) 実習課題を精査する (2) 実社会でのモデルを問題とする (3) プログラミング教材などを効果的に利用する (4) 教科会での指導法の研究を行う。 (5) 各種のセミナーに参加し指導法、教材研究の発展につなげる。	(1) 2学期末を期日とする (2) 授業アンケートにて確認 (3) 学年末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 学年末を期日とする	(1)A (2)B (3)B (4)B (5)B	(1) ipad などの情報機器端末を活用した授業を実践できた。 (2) 実例などをモデルに指導したが、まだ必要であった。 (3) 個人差が目立ったがアルゴリズムの理解をさせることができた (4) 過去問や模試、教材で研究した。 (5) 各世代にあった教材の改良の余地あり。
宗教	(1) 授業内容の精査 (2) 教材研究の質を向上 (3) 教員の質の向上 (4) 宗教行事の充実化 (5) 道徳教育への対応	(1) 教科書を元に何を伝えるか協議 (2) 他校と交流して、情報をえる (3) 教科会で授業動画を検証する (4) 学校と宗教行事を協議する (5) 道徳の教科書を周知する	(1) 授業アンケートで数値化 (2) 学年末を期日とする (3) 2学期末を期日とする (4) 学年末を期日とする (5) 2学期末を期日とする	(1)A (2)A (3)B (4)B (5)A	(1) 教科書を元にして活発な教科会が実践できた。 (2) 宗門学校の研修会に開催でき情報を得ることができた。 (3) 授業での動画を使っでの展開をできた。 (4) 行事を盛り上げることができた。 (5) 道徳の教科書をあまり上手く使いこなせなかった。

【分掌】

部署	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（目標）		自己評価と分析
高校教務	(1) 学園内における連絡事項の周知徹底 (2) 行事の精査、企画運営 (3) 時間割および教員の持ち時間数の公平性 (4) デジタル配信による、情報の取扱いについて (5) 観点別学習を含め、内規の検討 改訂	(1) 職員朝礼、職員会議、教科会等の抜け、漏れが出ないように工夫する。 (2) コロナ禍における行事の変更、運営方法の変更から、コロナ禍明けの現在に適した行事の再構築を行う。 (3) 教科主任への徹底、事前に是正ができるよう取り組む。 (4) ペーパーレス化が進む中、情報の取捨選択、精査が重要になってきている。 (5) 観点別学習評価導入を受けて、現状に則した内規の検討。	(1) 記録の利用 (2) 生徒・保護者の満足度を上げる。 (3) 年度内の早い時期より、次年度に向けて取り組みができるようにする。 (4) BLEND、Classi といった支援アプリの利用ルールの導入 (5) 令和 8 年度中に完成 令和 6, 7 年度で細部の検討	(1)B (2)B (3)B (4)B (5)A	(1)職員朝礼や会議は実施できているが、内容の徹底が不十分であったと考える。 (2)コロナ禍以降、何事においても効率化や省略化へと進み、再度検討する必要があると考える。 (3)年度当初はある程度の公平性を実現したが、年度途中の変更などイレギュラーが多数発生し、全体的には苦しい 1 年であった。 (4)全体として問題なく活用しているが、ルールの導入には至らなかった。 (5)令和 8 年度より新内規を導入できた。
中学教務	(1) 全教員への情報伝達の迅速化。 (2) 学年行事の見直しと改善。 (3) 学習評価の明確化。 (4) カリキュラムの検討。 (5) 備品や必要書類の整理・整頓。	(1)連絡手段として便利であるので、全教員に連絡する手段として積極的に活用する。 (2) 生徒募集に関わる行事への、在校生の積極的な活動を目指す。 (3) 教科により、学習評価の方法が異なる部分があるので、教科担当先生と打ち合わせし、誤りのないようにする。 (4) カリキュラムが適正かどうかの検討を進める。 (5) 教務部の誰もが対応できるように整理整頓を行う。	(1)全教員への連絡で Classi を利用した際、「見ました」ボタンの押した率を 100%以上とすることを目標とする。 (2) 本校在校生の良さを伝えられるよう、企画する。 (3) 全教員に徹底できる様、準備を進める。 (4) 2025 年度中に検討する。 (5) 2025 年度中、継続する。	(1)B (2)A (3)B (4)C (5)C	(1)Classi での配信は積極的に実施したつもりであるが、年度が進むにつれて、「見ました」の率は低下した。 (2)積極的に生徒が参加してくれた。さらに参加を促したい。 (3)教科によって異なるため、さらに次年度は明確にしたい。 (4)検討できなかった。 (5)一部の書類は整理整頓できた。

<p>生活指導</p>	<p>(1)『生活指導マニュアル』の指導方法及びその内容の見直し。そして全教員の統一された指導を実践する。</p> <p>(2)身だしなみを整える(頭髪・上着のボタン、リボン、ネクタイ、アンダーシャツ、化粧)。</p> <p>(3)挨拶を交わす。</p> <p>(4)時間を守る。チャイム登校・遅刻0を目指す。</p> <p>(5)規範意識を持たせることを、生徒の自主性から導き、違反をしないようにさせる。</p> <p>(6)薬物乱用防止教室・防犯教室を実施する。</p>	<p>(1)生活指導部の役割の明確化、担任及び学年中心の指導体制を構築する。生活指導部は担任指導のサポートをする。ただし、問題行動に関しては機密事項も含まれ、人権問題にも発展するので慎重を期する。</p> <p>(2)頭髪は流行をおわず、本校の生徒らしさを求める。リボン・ネクタイ忘れ、制服のボタン留忘れがないようにするための声がけをする。化粧は、外見を飾らず内面を磨くことに努めさせる。</p> <p>(3)さわやかな挨拶や相手を思いやる言葉がけを目指す。</p> <p>(4)常に時間に余裕を持ち、5分前行動を心がけるよう指導する。また、健康管理にも気を配る。</p> <p>(5)失敗や間違いを正しく理解し、素直な心で改善する。また、思いやりの心を育み、人にやさしい人間づくりを目指す。</p> <p>(6)外部より講師を招き啓発活動を行うトラブルに巻き込まれないよう、正しい知識を身に着ける。防犯については「SNS」に重点を置き、加害者にならないよう注意を促す。</p>	<p>(1)1学期中を目指したい。</p> <p>(2)継続して取り組みたい。</p> <p>(3)今年度中を目指したい。</p> <p>(4)今年度中を目指したい。</p> <p>(5)今年度中を目指したい。</p> <p>(6)高1を対象に1学期実施予定。</p>	<p>(1)B マニュアルの見直しを行い令和8年度には少し変更をいれる。また、学年・担任との連携を強化したい。</p> <p>(2)B 頭髪・身だしなみに関しては、根気よく指導を行い、少しでも減らしていきたい。</p> <p>(3)A 立ち番等で教員から積極的に挨拶を行った結果、生徒の方から積極的に挨拶をするようになった。</p> <p>(4)B 遅刻指導についても根気よく取り込んでいきたい。</p> <p>(5)B 規範意識を理解させ持たせる指導は、徹底して生徒との話をして取り組んでいる。</p> <p>(6)A 令和8年度も実施し、正しい知識を生徒たちに身に着けてほしい。</p>
<p>進路指導</p>	<p>(1)進路学習の見直し</p> <p>(2)基礎学力の向上</p> <p>(3)Uゼミの安定実施</p> <p>(4)本校生徒の現状把握</p> <p>(5)生徒保護者への情報提供</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携実施</p> <p>(2)模試の事前事後の活用、スタディサプリの利用促進</p> <p>(3)Uゼミの内容等の周知徹底</p> <p>(4)模試成績及び受験結果の分析</p> <p>(5)Classiを利用した情報の提供及び進路行事の検討</p>	<p>(1)進路LHRと進路探求の連携実施する。</p> <p>(2)スタディサプリの利用率の向上</p> <p>(3)Uサイトの定期的な更新</p> <p>(4)資料を作成する</p> <p>(5)新たな進路行事の実施</p>	<p>(1)C (1)実施計画の検討は行ったが立案には至らなかった。</p> <p>(2)C (2)教員対象のガイダンスや生徒対象の利用相談会など実施したが、利用率の大幅な向上には至らなかった。</p> <p>(3)B (3)運営法について検討を行った。引き続き、実施に向け準備を進める。</p> <p>(4)B (4)進路状況等資料の作成は行ったが、有効的な利用出来ていない。</p> <p>(5)A (5)高校各学年を対象とした進路ガイダンスを実施した。次年度以降も改善を行い、実施を継続。</p>
<p>入試対策</p>	<p>(1)塾・中学校訪問を中心としたより効果的なアプローチ</p> <p>(2)入試説明会等の日程、内容の吟味とプレゼンテーションのあり方についての研究。</p> <p>(3)新しいタイプの入試方法を検討する。(資格取得者の点数化あるいは優遇措置も含む)</p> <p>(4)中学入試の日程及び広報等に関する提案。(一般学力型・適性検査型・自己アピール型)</p> <p>(5)入試関連行事において、関係各部署と情報の共有化を図る。</p>	<p>(1)渉外担当で各エリアの全塾、全中学校を訪問する。</p> <p>(2)他校とのバッティング、内容の再確認(在校生、卒業生、保護者の登壇等)をし、より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3)特に中学入試に関して、他エリアの現状を研究しながら実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討する。</p> <p>(4)大手塾の雑誌記事等を参考にし、入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5)入試関連行事の滞りのない運営。</p>	<p>(1)受験生、新入生の定員確保。高等学校専願者を増加させる。</p> <p>(2)より効果的な説明会を実施する。</p> <p>(3)実施可能なさまざまなタイプの入試方法を検討し、実施する。</p> <p>(4)入学生が増える入試日程や方法を検討し実施する。</p> <p>(5)入試関連行事の滞りのない運営。</p>	<p>(1)B (1)教室が足りない可能性があり、プレップコースのみ募集の成績ラインを上げた結果、プレップの受験生が昨年と比べ専で約100名、併で約250名減となった。しかし、昨年度に比べ成績の良い生徒が入学しているため、進学実績が上がるが見込まれる。</p> <p>(2)A (2)今年度中学校では6月に授業体験会という新たな取り組みを行ったが、締め切りになるものがほとんどで盛況だった。中・高とも説明会日程については妥当なところと思われる。</p> <p>(3)A (3)(4)中学入試においては、関東で自分の得意なものを選んで受験できるという入試を実施した学校は受験生増につながっているようで、本校も検討の余地はあると思う。</p> <p>(5)A (5)中高とも関係部署との連携は</p>
<p>ICT</p>	<p>(1)BLEND の利用促進</p> <p>(2)観点評価処理の構築</p> <p>(3)成績処理の円滑化</p> <p>(4)入試処理の円滑化</p> <p>(5)生徒のiPad 利用促進</p>	<p>(1)Classi によって周知徹底を行う。</p> <p>(2)MotivationWorks 社との打ち合わせを入念に行う。</p> <p>(3)成績入力後の確認徹底を行う。</p> <p>(4)入試に向けて準備徹底を行う。</p> <p>(5)教員向け研修を行う。</p>	<p>(1)出欠未登録の減少</p> <p>(2)不具合の徹底解消</p> <p>(3)成績訂正の減少</p> <p>(4)処理時間の短縮</p> <p>(5)1日の授業時数の半数でのiPad 利用</p>	<p>(1)B (1)未登録は減ったがまだ完璧ではない</p> <p>(2)B (2)成績算出が煩雑で不具合多発</p> <p>(3)B (3)まだまだ訂正や未入力多い</p> <p>(4)B (4)安定してきた</p> <p>(5)B (5)色んなWEBサービスの利用促進はまだまだできる</p>

<p style="text-align: center;">総合的探究</p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」の内容や意義を理解させる。</p> <p>(2) 探究課題を積極的に見つけさせる。</p> <p>(3) 課題解決に向かう主体的な姿勢を身につけさせる。</p> <p>(4) 地域・社会貢献への意識をもたせる。</p> <p>(5) 結果をまとめ発表できる表現力を身につけさせる。</p>	<p>(1) 会議・ガイダンスで説明を周知徹底する。</p> <p>(2) 創意工夫により事実を理解させ、問題意識をもたせる。</p> <p>(3) 実例をあげて主体的に取り組ませる。</p> <p>(4) 社会・環境情勢に興味をもたせる</p> <p>(5) 各学年、生徒各自で探究学習の記録を残させる。</p>	<p>(1) 全学年・クラスで総合的な探究の時間に取り組む。</p> <p>(2) 探究課題の設定を行う。</p> <p>(3) 情報の収集と分析・整理を重視する。</p> <p>(4) 探究課題の考察と総括を行う。</p> <p>(5) クラス・学年全体の単位で発表させる。</p>	<p>(1)B (1) 全クラスで実施するにあたって、教員対象の研修会や生徒への説明を行ったが、探究の意義の周知徹底にはまだ課題が多く、今後も促進する方策を講じる必要がある。</p> <p>(2)A (2) 学年ごとに、クラスやグループごと、あるいは個人で、課題やテーマを設定させた。身近な問題に意識を向ける機会を増やしていくべきである。</p> <p>(3)B (3) 高2は個人探究の中で情報の収集や分析の実践に取り組んだ。高1は自ら考えさせ、グループワークの機会も設けた。次年度は、生徒が興味を持ち自ら取り組むような教材・プログラムの内容等を導入する。</p> <p>(4)B (4) 高1の探究プログラムにおいて、地域・社会の課題について興味を持ち、自らの生活と結びつけて考えられるプログラムを導入した。テーマによっては、自分事と捉えにくい抽象的なものについて考えさせる難しさが顕著になった。</p> <p>(5)A (5) 高1では各クラスで発表や意見共有の機会を設け、高2では個人探究の発表をクラスで実施した。今後も生徒がアウトプットできる機会を設けていく。</p>
<p style="text-align: center;">広報戦略</p>	<p>(1) 学校案内・ポスターなど広報物の作製</p> <p>(2) 中学受験の新たな行事の広報物の作製</p> <p>(3) デジタル化への移行の推進</p> <p>(4) 有効的な広報の研究</p>	<p>(1) 年度の早い段階から動き出す</p> <p>(2) 授業体験会に参加したくなるようなリーフレットの作製</p> <p>(3) デジタルパンフレット、デジタルコンテンツの研究</p> <p>(4) 広報物も含め、通学地域などを鑑みた広報戦略</p>	<p>(1) 旧年度の3学期から写真・モデルの選定</p> <p>(2) 4月初旬に完成</p> <p>(3) 首都圏などの広報などの研究</p> <p>(4) 入試対策部の営業エリアの見直しから有効的な広報の仕方を模索する。</p>	<p>(1)C (1) 広報物制作企業を急遽変更することになり早い段階から次年度のものが作成できなかった。</p> <p>(2)C (2) (1)と同様</p> <p>(3)B (3) 引き続き研究が必要</p> <p>(4)B (4) 引き続き研究が必要</p>
<p style="text-align: center;">図書館運営</p>	<p>(1) 昨年度以上の貸出冊数をめざす。中高合わせて7000冊をめざしたい。</p> <p>(2) 書庫の整理を行っていく。</p> <p>(3) 紀伊国屋書店との連携を取り、図書館運営を生徒にとって有意なものにしていく。</p> <p>(4) アクティブラーニングスペースを有効活用してもらい、有意義なスペースにしていく。</p> <p>(5) 図書館の自習利用の方法を今後見直していく。</p>	<p>(1) LIBSTAGRAM や図書館報などの呼びかけで図書館に来る生徒数を増やしていく。</p> <p>(2) 古い雑誌類を中心に破棄することに努める。</p> <p>(3) 月に一度の会議を行っていく。</p> <p>(4) 中学だけに問わず、高校の各教科の先生にも活用してもらう。</p> <p>(5) テスト前などの使用方法や利用者増加のための策を考える。</p>	<p>(1) (1) 7000冊以上</p> <p>(2) 書庫の廊下にある書籍を無くす。</p> <p>(3) 年間12回</p> <p>(4) 1日1時間以上の高校授業</p> <p>(5) 生徒にアンケート評価の実施</p>	<p>(1)A (1) 貸出冊数の目標達成ができた。</p> <p>(2)A (2) 書庫はかなり整理することができた。</p> <p>(3)A (3) 紀伊国屋書店との連携を取りながら定例会は行えた。</p> <p>(4)B (4) 自習時間を中心に活用していただけた。</p> <p>(5)B (5) コロナも落ち着きパーテーションを今後どうしていくかの課題が残る。</p>
<p style="text-align: center;">人権教育</p>	<p>(1) 人権教育を各クラスのホームルームのみに委ねることなく、教科指導・特別活動・部活動等、全ての教育活動全般との連携において推進する。</p> <p>(2) 有効な各テーマにおける教材作成と参加型学習・視聴覚教材の活用により、人権問題の正しい理解と人権感覚の向上を目指した人権教育LHRを企画する。</p> <p>(3) 自己と他者との違いがあることが原点であり、その視点から、多様性を尊重し、他者を思い遣る心の涵養を図る。</p> <p>(4) 「生活・いじめアンケート」の目的の明確化、それにとまなうその活用を浸透させる。</p>	<p>(1) 各学年担任・教育相談係・保健室・生活指導部と連携する。</p> <p>(2) 「人権教育基本方針」を作成し、推進機構(組織・会議・構成員)・基本方針・本年度重点目標・年間計画を明示する。</p> <p>(3) 教職員研修に寄与するべく、大阪私立学校人権教育研究会の概要と課題別研究委員会の内容を周知通達し、また、人権教育基本精神啓発資料を作成する。</p> <p>(4) 教職員研修および生徒の人権意識の状況報告と向上を目指した推進会議を企画する。</p> <p>(5) 適切な教職員研修会を企画する。</p>	<p>(1) 生徒の平常の学校生活状況・言動・交友関係、家庭での状況を知る「生活・いじめアンケート」結果の活用を各担任にどう促すか。</p> <p>(2) 4月人権教育企画推進委員会で基本方針等原案の提案承認・全教職員への公示・意見集約を経て、7月人権教育推進会議で決定</p> <p>(3) 「人権教育基本方針」に盛り込み、周知徹底</p> <p>(4) 私学人研他、校外研修会参加者からの研修内容の報告・研修資料配布等</p> <p>(5) 要求のある研修内容を提供する講師の招聘</p>	<p>(1)B (1) 「生活・いじめアンケート」の精査の途上。特に記名・無記名実施の理由、回答率についての検討。</p> <p>(2)B (2) 基本方針等原案の提案承認・全教職員への公示は実施。</p> <p>(3)A (3) 全教職員への周知徹底、報告の完了。</p> <p>(4)A (4) 全教職員への周知徹底、報告の完了。</p> <p>(5)A (5) 今年度は同和問題を扱ったDVD『破戒』を視聴。</p>

<p>保健管理</p>	<p>(1) 発育・発達に応じた、生涯にわたる心身の健康と保持増進を図る保健教育の実践。</p> <p>(2) 保健室の機能、養護教諭の専門性を生かした心身のケアと健康相談活動の充実、コーディネーションを図る。</p> <p>(3) 健康課題に対して、教職員・生徒・保護者・専門医等学校全体で生徒を守るチーム支援を目指す。</p>	<p>(1) ①文科省学校保健統計調査指定校となり、統計処理を行う。</p> <p>②様々な機会統計を活用して、本校健康課題に着眼し、集団、個別の保健教育、保健指導を行い、健康・安全意識を高める。</p> <p>③基本的な生活習慣の確立、自立的な健康管理能力を養う。</p> <p>④学校感染症の予防に努める。</p> <p>(2) ①一人一人に寄り添い、メンタルヘルスの課題を早期に発見・対応ができる支援体制の構築。</p> <p>②要配慮生徒の的確な把握と情報共有、関係機関との連携・調整を図る。</p> <p>(3) ①学校全体の健康課題、ニーズの探求とヘルスリテラシーの習得及び情報発信の推進。</p> <p>②危機管理に備え、適切かつ迅速に対処できる体制を推進。</p>	<p>(1) ①健康診断の意義を理解し、精密検査を含めた受診率100%を目指す。</p> <p>②視力低下や眼科疾患、むし歯・口腔疾患の予防、怪我や事故の予防等に努め、健康課題の昨年度減を目指す。</p> <p>③睡眠・食事・ネット依存等の生活習慣の改善、ICTを含む啓発教材作成</p> <p>④学校感染症の罹患者把握、情報共有。</p> <p>(2) ①一人一人への声かけ、悩みや困り感に共通理解を示した支援、担任や教育相談、SCとの連携・調整を行う。</p> <p>不登校や教室に入りづらい生徒の減少、自助努力を促して生徒間で相互に支え合う雰囲気づくりと支援。</p> <p>②既往症やアレルギー等の要配慮生徒のリストを活用できるように工夫、学校行事等に反映し情報共有を密に図る。</p> <p>(3) ①教職員・学校医・学校薬剤師・学校歯科医・SC・保護者・産業医・生徒保健委員会との連携協働。</p> <p>②アレルギー講習会の実施、救急処置のシミュレーション訓練の実施。</p>	<p>(1)A (1) ①統計結果の分析と事後措置を徹底し、健康管理能力を高めた。</p> <p>②医療費請求対象となる怪我は昨年度より約2割減少した。視力低下は深刻な取り組むべき課題である。</p> <p>③本校独自の啓発教材ができた。ICTを更に活用し啓発を推進したい。</p> <p>④学校感染症の罹患者・届をBLENDにて情報共有し、感染症予防に努めた。</p> <p>(2)A (2) ①全来室者の44.6%が中学生であった。悩みや困り感に寄り添い、発達成長に応じた丁寧な支援を心掛けた。生徒のみならず保護者と共に、学校関係者や医療機関との連携・調整を図った。生徒の相互理解と支え合う環境調整、不登校予防的支援を継続したい。</p> <p>②要配慮生徒のデータを統合し、特に宿泊的行事において活用、共有できた。</p> <p>(3)B (3) ①関係機関と相談を重ね、組織的連携協働でチーム支援ができた。</p> <p>②養護教諭、教職員、生徒の救急意識が高まり、定期的な救急処置の訓練を実施する必要がある。</p>
<p>教育相談</p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ</p> <p>(2) 教職員の臨床的視点の醸成</p> <p>(3) 「ホップの会」実施</p>	<p>(1) 研究会・研修会への参加</p> <p>(2) ①研修会・担当者会議の実施</p> <p>②SCとの連携</p> <p>(3) 学期に1回の実施</p>	<p>(1) 参加後の振り返り</p> <p>(2) ①生徒理解とその支援</p> <p>②生徒理解とその支援</p> <p>(3) 保護者同士の心理的交流</p>	<p>(1)B (1) 3回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。</p> <p>(2)B (2) ①生活指導部、管理職の先生にも生徒のケースに協力してもらい、スムーズに保護者へ伝達をすることができた。</p> <p>②カウンセラーにも係会議に参加してもらうことで、より生徒への理解が深まった。</p> <p>(3)A (3) 同質性の高い保護者同士が集まることで、横、縦のつながりができ、保護者の精神的安定につながり、これが生徒への支援にも通じた。</p>
<p>特別支援</p>	<p>(1) 係員個々人のスキルアップ</p> <p>(2) 教職員の臨床的視点の醸成</p> <p>(3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成</p>	<p>(1) 研究会・研修会への参加</p> <p>(2) ①研修会・担当者会議の実施</p> <p>②SCとの連携</p> <p>(3) 次年度への引継ぎ資料として使用する</p>	<p>(1) 参加後の振り返り</p> <p>(2) ①生徒理解とその支援</p> <p>②生徒理解とその支援</p> <p>(3) 共有事項の周知徹底を図る</p>	<p>(1)B (1) 3回実施されたカウンセリング研究会の研修に参加し、自己研鑽を積み努力できた。</p> <p>(2)B (2) ①個別の指導シートの共有方法を管理職と相談し確立した。</p> <p>②カウンセラーにも係会議に参加してもらうことで、より生徒への理解が深まった。</p> <p>(3)B (3) 担任にclassiで情報提供の依頼を行い、円滑に進めている。</p>
<p>生徒会</p>	<p>(1) 教員間の情報の共有</p> <p>(2) 学校行事における生徒会業務の内容の吟味と効率化</p> <p>(3) 効率的な体育大会の実施方法</p> <p>(4) 効率的な文化祭の実施方法</p>	<p>(1) 会議資料を充実させる</p> <p>(2) 内容を洗い出し、最善策を検討する。</p> <p>(3) 体育科教員からの意見を求め、安全に実施できるように進める。</p> <p>(4) 多くの教員からの意見や、生徒からの意見も参考に進める。</p>	<p>(1) 記録を作り報告する。</p> <p>(2) 報告書の作成</p> <p>(3) アンケート調査</p> <p>(4) アンケート調査</p>	<p>(1)A (1) 作成し情報を共有化することができた。</p> <p>(2)A (2) 内容を検討・報告書を作成し、学校に意見を求めることができた。</p> <p>(3)D (3) 実施せず</p> <p>(4)D (4) 実施せず</p>